

報道各社御中 環境省広報室

北海道での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う野鳥緊急
調査チームによる調査の結果について
(H28.12.15 16:00)

北海道苫小牧市において11月24日に回収されたハヤブサ1羽から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたことを受けて、12月13日(火)~15日(木)に野鳥緊急調査チームを現地に派遣し、現地の野鳥の生息状況等の調査を実施しましたので、以下のとおり結果をお知らせします。

1 調査結果

12月13日~12月15日にかけて、北海道苫小牧市の発生地点周辺半径10km圏内の野鳥監視重点区域内等の、渡り鳥の飛来地等の計11地点において生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施。野鳥の大量死は認められなかった。

なお、調査チーム派遣期間内に野鳥重点監視区域内において北海道が回収した死亡野鳥個体については、現在国立環境研究所にて検査中。

(参考)

観察された鳥類 43種
うち、リスク種1 7種(オオハクチョウ、オジロワシ、キンクロハジロ等)
リスク種2 4種(マガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ等)
リスク種3 17種(トビ、カモメ、クロガモ等)
北海道により回収(14日)された検査中の死亡野鳥個体 1種(2体)
うち、リスク種1 ハイタカ2体

*本調査結果は暫定値です。

*リスク種とは:「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」において、感染して死亡しやすい種を中心に設定。

2 今後の対応

野鳥監視重点区域において、北海道と連携し、引き続き野鳥の監視を実施。

環境省はホームページで野鳥における高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/)

平成 28 年 12 月 15 日 (木)

自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

直 通：03 - 5521 - 8285

代 表：03 - 3581 - 3351

企 画 官：東岡 礼治 (内線6475)

鳥獣専門官：根上 泰子 (内線6676)

北海道地方環境事務所野生生物課

直 通：011 - 299 - 1954

課 長：田口 和哉

課長補佐：平井 和登